

四季の里リニューアルに係る基本構想 ①

1 はじめに

◆基本構想の策定趣旨

四季の里は、平成7年に開園してから30年が経過し、来園者減少など様々な課題を抱えている状況にある。

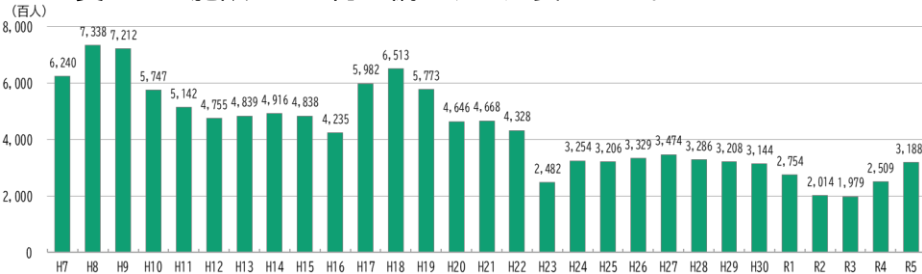
多様化するニーズを捉え、新たな視点で施設運営をしていくため、リニューアルに係る基本構想を策定するに至った。

2-1 施設の抱える課題①

◆来園者数の減少

年間来園者数は、開園直後の平成8年に過去最高を記録して以降、年々減少傾向にあり、近年は20～30万人程度で推移している。

魅力ある施設運営を行い、減少する来園者数に歯止めをかけ、多くの方々に愛される施設として再整備をする必要がある。



2-2 施設の抱える課題②

◆空きテナントの常態化

近年、入居していたテナント事業者の撤退が相次ぎ、現在は3施設が空きテナントとなっている。

この状況は、解消の見込みがたっておらず、園内で飲食を楽しめる施設がないなど、利用者の満足度にも大きく影響しており、早急に対応することが求められている。

【テナント等撤退状況】

R1.1.31 工芸館 ガラス工房撤退

R3.1.31 憩の館 飲食店撤退

R5.10.31 農園レストラン 飲食店撤退

3 施設が求められている姿

今後の運営のあり方や理想像、施設に期待する事項等について把握することを目的として、WEBアンケートや事業者ヒアリング、地域住民や施設利用者を対象としたワークショップなどを実施し、その結果を下記のとおり取りまとめた。

◆四季の里が求められている姿

- ①食事や軽食をとることができ、のんびりと落ち着いた時間を過ごすことのできる施設
- ②あづま山麓エリアのハブとして周辺施設への周遊を促すような情報発信機能を備えた施設
- ③子どもの学びや遊びに関するコンテンツなど、利用層に応じて施設ならではのコンテンツを提供できる施設

4 施設コンセプト

◆コンセプト

実湧満彩な四季の移ろいを感じながら、子どもから大人まで時間を忘れて楽しめる公園

◆ターゲット及び施設全体で目指す提供価値

ターゲット層	目指す提供価値	導入機能・取り組み例
①ファミリー層 	- 既存の遊び場・遊具を目的として利用しているファミリー層が長時間滞在可能な場・コンテンツの提供を図る。 「遊び」のみならず、「体験」や「学習」といったコンテンツの強化により、「何度も訪れたい」複合的魅力の提供を図る。 - 子どものみならず、親世代からも「お出かけ先」として選ばれるコンテンツの提供を図る。	▶ 季節、天候に関わらず利用可能な遊び場 ▶ 親子で利用可能な飲食・休憩機能（昼食利用等） ▶ ものづくりメニューの拡充 ▶ 親子で参加可能なイベントの積極実施 ▶ テイクアウト可能な飲食、物販機能 ▶ 「あづま山麓エリア」の魅力・情報発信機能
②若年層 	「あづま山麓エリア」等の観光周遊の目的地、あるいは立寄地の1つとして選ばれるコンテンツの提供を図る。 ▶ ゆっくりと時間を過ごし、語らうことのできる環境の提供を図る。 ▶ 旅行や来訪時の思い出・記念となるフォトスポット及び環境の提供を図る。	▶ テイクアウト可能な飲食、物販機能 ※再掲 ▶ フルーツ等の特産品を活用した飲食機能（カフェ等） ▶ 花の丘や芝生広場の利用を想定したアウトドア用品（テント、タープ等）等の貸出機能 ▶ バラ園・ハーブ園など園内植栽の情報発信機能 ▶ 若年層向けイベントの実施
③シニア層 	▶ 園内散策などゆっくりとした時間を過ごすことのできる環境の提供を図る。 ▶ あづま山麓エリア、四季の里「ならではの体験や学びの提供を図る。 ▶ 次の目的地や旅先の検討に役立つ情報の提供を図る。	▶ 「静・動」のエリア分けに留意した導入機能検討 ▶ ゆっくりくつろげる飲食・休憩機能（カフェ等） ▶ 「あづま山麓エリア」ならではの物販機能 ▶ 「あづま山麓エリア」の魅力・情報発信機能 ※再掲 ▶ バラ園・ハーブ園など園内植栽の情報発信機能

四季の里リニューアルに係る基本構想 ②

5 リニューアルに向けたゾーニング

◆ 園内ゾーニング

■ 豊かな自然満喫エリア

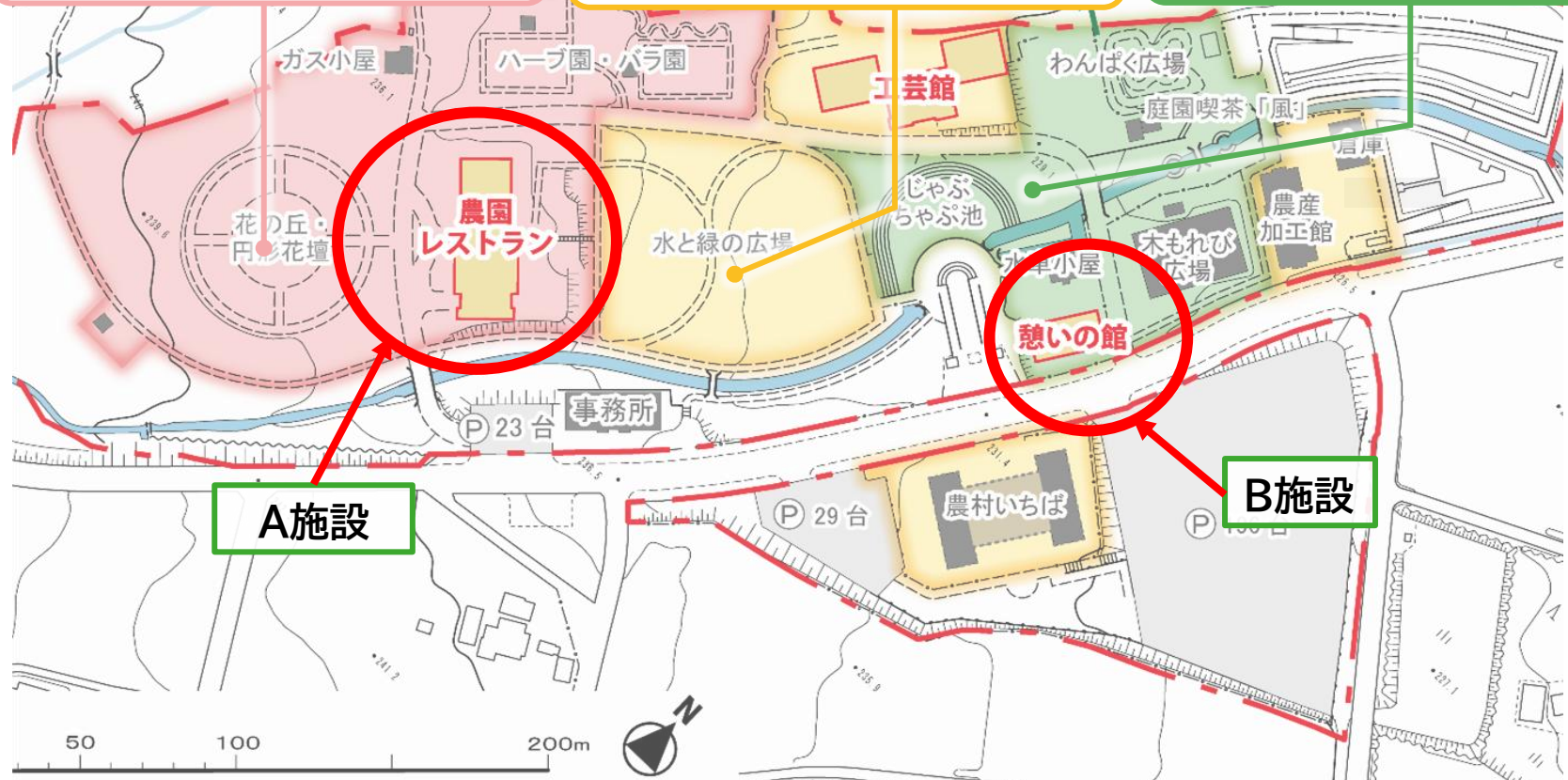
既存の花の丘・円形花壇、ハーブ園・バラ園、また隣接する水林自然林など豊かな自然を活かし、アウトドアや散策など思い思いの時間を過ごすことのできるエリアとして位置づける。

■ みんなの体験・発信の場エリア

既存施設を活用し、福島市の魅力発信に繋がるイベント（朝市、マルシェなど）等の実施を促進するエリアとして位置づける。

■ 子どもの遊び場エリア

既存の遊び場施設（木もれび広場、じゃぶじゃぶ池など）を活かし、親子利用を一層促進するエリアとして位置づける。



園内を3つのエリアにゾーン分けし、整備を図っていく。

また、公募対象とする農園レストラン、憩の館については、それぞれA施設、B施設と設定し、名称やこれまでの用途に縛られない施設の利活用を促していく。

◆ 主要な利活用方針

① 福島らしさを活かしたコンテンツの展開

農業に関する体験コンテンツの導入
定期的な朝市などの開催

② 食事や軽食をとれる場所の整備

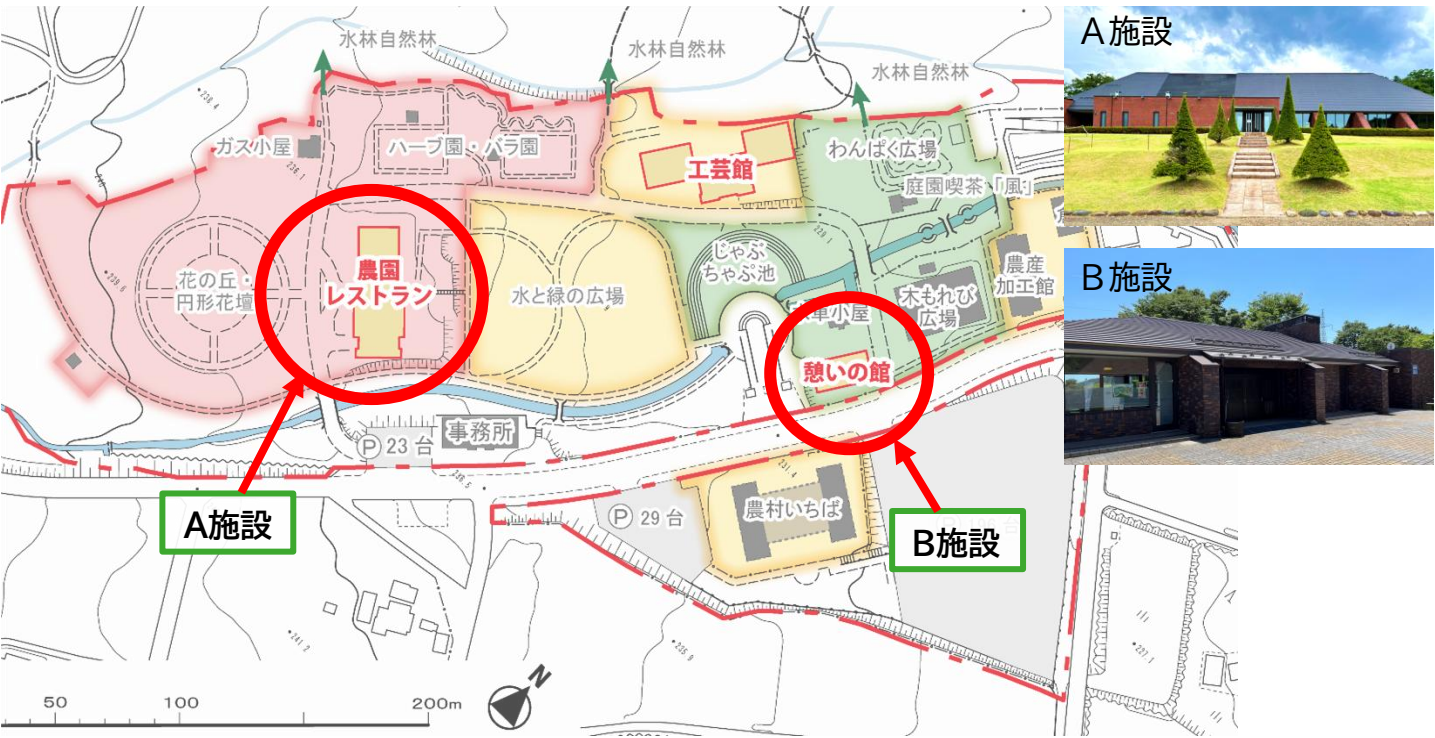
園内に1施設は飲食店を整備
市産農畜産物の使用を推奨

③ 子どもの遊び場の充実

ファミリー層のおでかけでの目的地化
遊具の新設・更新等の検討

四季の里リニューアルに係る基本構想 ③

6 各施設の今後の利活用方針



ゾーン	施設名	今後の方針
テナント施設	A施設 (農園レストラン)	2施設をテナント施設として事業者を募集する。 - 民間事業者が一体的なコンセプトのもと賑わいを創出できるようにするため、1事業者・団体がイニシアチブを取って管理・運営することを基本的な考え方とする。 - 事業者には、福島らしさの感じられるコンテンツの提供を求める。 - 来園者満足度向上のため、少なくとも1施設は飲食店を整備する。飲食店では市産農畜産物の使用を推奨する。 - 施設内を区切って複数の事業者が出店する形式も可能とする。 - 施設コンセプトやゾーニングに沿った内容で、民間事業者の知見・ノウハウを活かした提案をもとめ、運営事業者を決定する。
	・ 建築面積：844.60㎡(延床760.36㎡)	
	B施設 (憩いの館)	
	・ 建築面積：229.80㎡(延床229.80㎡)	

ゾーン	施設名	今後の方針
豊かな自然満喫エリア	【機能維持】 花の丘・円形花壇	- フランス庭園様式を取り入れた円形花壇で四季折々の美しい風景を楽しむことができるエリアとなっている。 - 今後も指定管理による継続的な維持管理を図ることにより、魅力的な施設として維持していく。
	【機能維持】 ハーブ園・バラ園	
みんなの体験・発信の場エリア	【利活用促進】 工芸館	- 園を訪れた方誰もが気軽に休憩できるスペースとして活用するほか、観光客向けにあつま山麓エリアの観光施設について情報収集できる公共の場として活用する。 - また、現在の休憩スペース、こけしやガラスの給付ができる実習室、物販スペースがあるが、今後来園者にとってより利便性が高く、集客が見込める配置を検討していく。
	【利活用促進】 水と緑の広場	
	【利活用促進】 農村いちば	- 園内中央に位置する芝生広場で、今後も指定管理による継続的な維持管理を図ること、賑わいの中心地として維持していく。 - また、イベント誘致を推進するために必要な施策等について検討を進めていく。
	【利活用促進】 農産加工館	
	【利活用促進】 わんぱく広場	現在設置しているザイルクライミング（1基）、バッテリーカー（10台）の利用を促進するとともに、新たな遊具の設置など遊び場のリニューアルについて検討していく。
	【機能維持】 木もれび広場	
子どもの遊び場エリア	【機能維持】 じゃぶじゃぶ池	- 春から秋にかけて四季の里で一番の人気施設となる水浴び場として、今後も機能を維持していく。 - またイベント時には、階段広場としてイベントステージ利用されていることから、今後も積極的な活用を図っていく。
	【機能維持】 水車小屋	
	【機能維持】 水車小屋	現在、地元事業者により、規格外の県産農産物等を活用したジェラートが販売されており、今後も継続的な軽飲食の提供を図っていく。